

農林水産大臣賞

尾鷲物産株式会社(三重県尾鷲市)

【主な品目】

鮮魚 養殖ぶり
(セミドレス・ロイン等)

【主な輸出先国・地域】

中国(台湾・香港他)、
シンガポール、タイ、ベトナム他

【輸出取組の概要】

- 台湾、シンガポール、中国などに、自社養殖ぶりやオリジナル加工品等を輸出。2015年7月より、中部国際空港から台湾向けに週2回、生鮮水産物の定期輸出を初めて開始し、現在も継続
- 2016年12月には、ベトナム(ホーチミン)向けに週1回、生鮮水産物の定期輸出を開始するとともに、タイ、シンガポールなど新たな輸出国へ輸出を開始するなど輸出货量・回数拡大によって輸出が増加。
- 輸出国別に先地でコールドチェーンを確立した事業体と協同して、最適な方法で日本と同じような流通・販売体制を新たに作り、水平展開により 新たな輸出先国を開拓する仕組みを構築。

【輸出実績】平成17年から輸出開始

	輸出額 (万円)	輸血量 (t)	出荷時期
平成28年度	29,300	270	周年
平成27年度	25,000	220	
平成26年度	17,000	130	

輸出に取り組んだきっかけ

- ・ 国内向けのアイテム(一例:ブリカマ)が、各国向けに間接輸出され、その引き合いが徐々に増加し、他アイテム(一例:ブリロイン等)も外国向けに引き合いが見込まれたことや、国内向けの事業方針とともに輸出事業を水平展開出来ると判断し、間接・直接輸出を組み合わせた輸出の取り組みを開始した。

取り組む際に生じた課題

- ・ 国ごとに輸出に必要な手続き、認証、各種証明書などの提出書類等が異なるため、輸出先に応じて各国の法律、規制等対応が必要であり、個別対応に苦慮した。また、養殖ぶりの輸出では後発組であったため、価格競争に巻き込まれないよう、現地企業との取り組みやオリジナル性の高い製品、高品質な製品の提案、提供等の差別化が必要であった。



中部国際空港からの台湾向け
生鮮ブリ初出荷(2015年7月)



FOODEXPO2016 ジェトロ ジャパン
パビリオンへの出展(2016年8月)



香港量販店での弊社ブリ販売様子
(2016年8月)



ジェトロ日本産農水産物食品輸出
商談会inマレーシア(2014年9月)

生じた課題への対応

- ・ ジェトロ主催の海外商談会・展示会に参加して商品案内し、商品評価や現地ニーズを探り、現地企業との協力や、ニーズに適合した商品を開発、案内することにより、商品の訴求力を強化しました。
- ・ また、各国輸出に必要な登録・認証（SQF第7版）を取得して輸出体制を整え、加工・衛生・品質レベルを向上させたほか、輸出国ごとに（中国・米国・ロシア・ベトナム）工場の施設登録を行い、安全・安心・高品質な商品を提供しています。（今後、米国・EU向けにも真空生鮮商品を出荷するため施設登録取得予定。）
- ・ 併せて現地消費者に対して店頭POPや試食などを通じて商品説明に注力し、食べ方提案、安全・安心の日本産ブリであることなどの宣伝により、各国での日本産ブリ等の販売・販路拡大に努めています。

対応の結果

- ・ 味・品質・衛生面ともに、いずれの販売先からも好評を得ており、日本と同一アイテム品質である点が評価を得ました。
- ・ 輸出先国別に、特に輸出先でのコールドチェーンを確立した個別配達が可能で、最適な方法にて日本国内への流通と同一品質・同一規格・届日数で商品を届ける仕組みを構築しました。
- ・ これらノウハウを水平展開することで、新たな輸出先国を拡大することが容易な体制となったものと考えています。

今後の課題・展望

- ・ 更なる輸出拡大のため、各国・エリアのニーズを深掘りし、現地事情やニーズにマッチしたアイテムや提供方法（リードタイム・受注方法・運搬配達方法など）の新たな仕組み・改善が必要であると考えています。
- ・ 日本産水産物が安全・安心であることは既に周知のことであり、かつ、ノルウェーのSUSHI戦略のように高品質の刺身・寿司ネタとして日本産水産物の需要は今後も高まることから、一層の輸出拡大は十分に見込まれ更なる販路拡大を図る。



中部国際空港からのベトナム向け生鮮ブリ
初出荷セレモニー時の記者会見（2017年2月）



SFS2015 への出展
（2015年4月）



PIR2015 ジェトロ ジャパン
パピリオンへの出展（2015年10月）

【活用した支援・施策】 各ジェトロ商談会、水産物・水産加工輸出拡大協議会、全国養殖魚輸出振興協議会

【ウェブサイト】 <http://www.owasebussan.co.jp/>

【連絡先】 担当者名：玉本卓也・中澤祥、TEL：0597-22-2323(代)